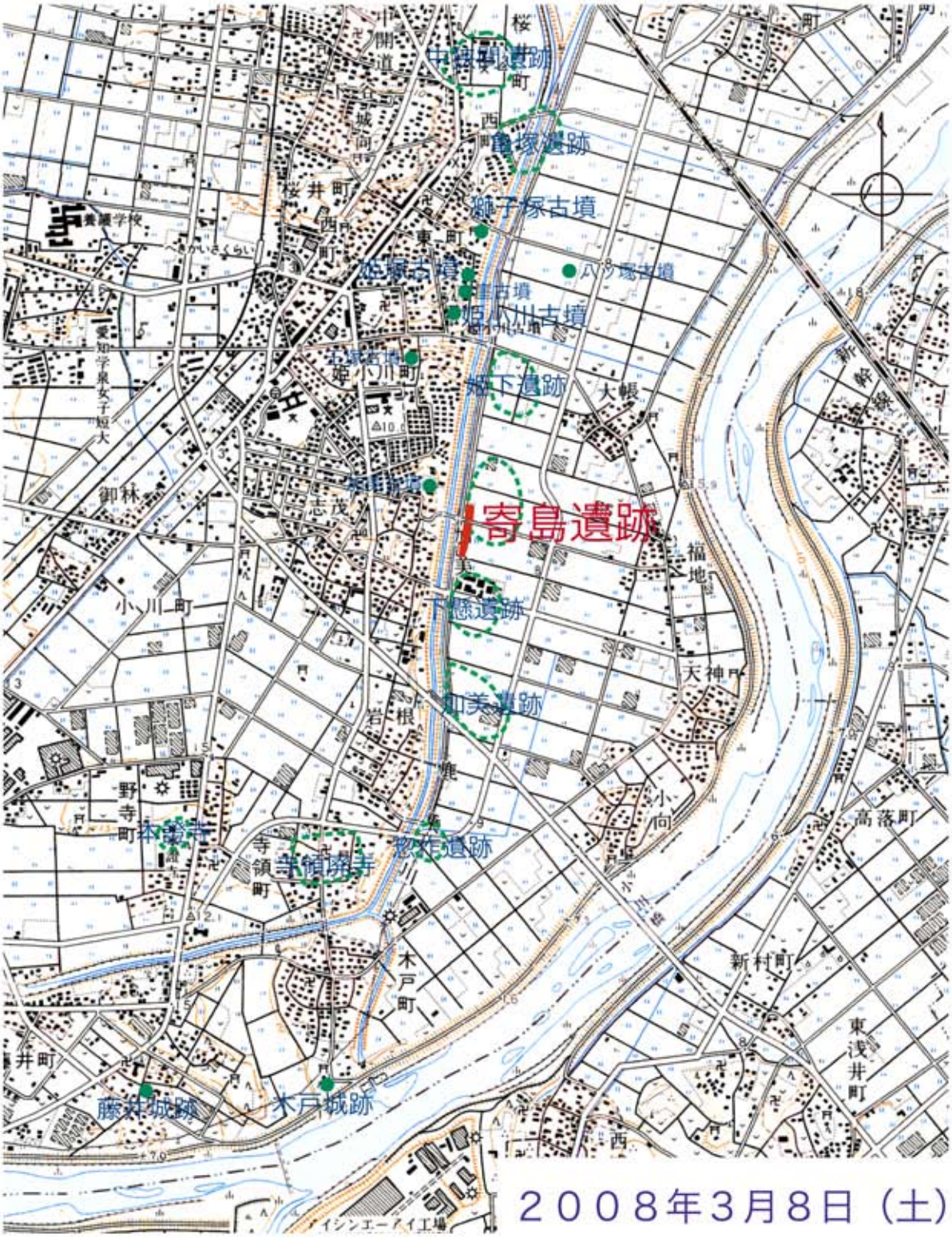
# 寄島遺跡現地説明会資料




２００８年３月８日（土）

主　催　（財）愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

支　援　加藤建設株式会社

## 遺跡の位置とその周辺

寄島（よせじま）遺跡は安城市小川町地内にあり、現・鹿乗川東岸の沖積地に広がる鹿乗川流域の遺跡の一つです。周辺には弥生時代から戦国時代の遺跡が集中します。北には姫下遺跡、南には下懸遺跡があり、寄島遺跡はその間の地域を範囲とすると考えられています。また、この地域の鹿乗川沿岸は碧海台地の縁辺部にあたり、台地の縁に沿うように、やや北には史跡に指定されている姫小川古墳・姫塚古墳・獅子塚古墳があり、この遺跡の対岸に位置する加美古墳や同じ沖積地上の八ッ塚古墳（滅失）なども含めた桜井古墳群が展開しています。

この遺跡のある地は、現在は大きな一本の矢作川と広大な農地が広がる穏やかな地形ですが、時代をさかのぼると、矢作川本流と碧海台地との間に広がる氾濫原であり、いくつもの小さな河川が網の目のように流れ、中洲や後背湿地が広がる変化の激しい地形であったと考えられます。これまでの鹿乗川流域の遺跡調査でも、そうした沖積地に展開した集落とともに、かつて存在した小河川の一部も確認されています（下懸遺跡・姫下遺跡など）。また、現在は整備された鹿乗川の河道によりまっすぐに見える沖積地と碧海台地との境も、元来は台地際で谷や尾根状の張り出しが顕著な入り組んだ地形であったと考えられます。

## 今年度の調査成果のポイント

今年度の寄島遺跡の調査は、調査地区を北から順にＡ・Ｂ・Ｃの３調査区に分けて実施しています。出土遺物は素焼きの土器である古式土師器が中心ですが、全体的に量が少ないうえに破片が多く、器形が明瞭なものはあまり出土していません。

### ［古墳時代初期から古墳時代前期の集落］

Ａ・Ｂ区を中心に竪穴住居跡と考えられる遺構が 50 棟ほど確認されました。これらの住居跡では、当時生活していたと考えられる面に炭化物や遺物が広がるものや、柱の穴が残るものも多くありました。また、今回の調査では、竪穴住居の中央部をテーブル状に残して周囲を１ｍほどの幅の溝状に一度掘り下げてから床面を張る「幅の広い周溝を持つ住居」（※右写真）が 12 棟確認されています。こうした住居がどのような目的で作られたのかは不明でさらなる検討も必要ですが、このような住居跡がまとまって確認されたことはあまりなく、この遺跡の特徴の一つともいえるかもしれません。

この他、Ａ・Ｂ区では縦横に走る溝や土坑が多数確認されました。これらの一部は出土遺物から住居跡とほぼ同時期とわかるものもありましたが、多くは時期不明です。これらの溝や土坑の用途は不明です。

今回の調査では、Ａ・Ｂ区は遺構の密度が高い箇所をそれぞれ上面と下面とに分けて掘削しましたが、遺構の時期的には上・下面とも同時期かやや下面が先行する程度と考えられます。地区的にもＡ・Ｂ区は古墳時代初期から古墳時代前期頃までは集落域であったと考えられますが、その集落域も一定であったわけではなく、時期的に変遷があるように考

えられます。出土遺物の形式変化からすると、Ｂ区域の方がやや古く、Ａ区の中央より北側の方が新しい傾向があります。

## ［古墳時代初期から古墳時代前期の墓域］

集落域と考えられるＡ・Ｂ区に対して、最南部のＣ区は墓域と考えられます。住居跡と考えられる遺構も北部でわずかに見られた以外は確認されず、かわって明瞭な形の方形周溝墓が２つ確認されました。これらの方形周溝墓は、中央の主体部は後世の削平により失われていましたが、方形に屈曲する周溝部が残っています。この周溝部から出土した遺物から、これらの方形周溝墓はどちらも古墳時代初期から古墳時代前期頃のものであると考えられます。さらに、Ｃ区の最南部には幅が 11m もあって、ほぼ直角に屈曲する浅い大溝が確認されました。この大溝の性格は今のところ不明ですが、墳墓の周溝の可能性も考えられます。

また、Ｃ区では方形周溝墓より下位で北西―南東方向に平行する多数の溝が確認されています。これらの溝は遺物をほとんど含まず、時期・用途ともに不明です。

## ［その他の時代の遺構･遺物］

Ａ・Ｂ・Ｃ区を通じて、古代の須恵器や平安時代の灰釉陶器などの陶器類も出土しました。とくにＣ区では全域で灰釉陶器の破片が出土しましたが、どの調査区もその時期の明瞭な遺構は確認できませんでした。

Ａ・Ｂ区では、現代の耕作土直下で少数の溝や土坑が確認されました。Ｂ区で確認された江戸時代中頃の溝以外はどれも時期不明のものです。

この地域は近世以降耕作地として長年利用されてきたため、古代以降の遺構は失われてしまったと考えられます。

【竪穴住居】
地表を深さ 50cm ほど掘り下げ、その上に屋根を葺きおろした掘立柱の住居。

【方形周溝墓】
方形の低い墳丘の周りに溝をめぐらす墓制。

Ａ区より南をのぞむ

Ｂ区より北をのぞむ

# 寄島遺跡主要遺構配置図

0 5 10 15 20m

幅の広い周溝を持つ竪穴住居跡

炭化物の残る竪穴住居跡の生活面

竪穴住居跡より出土した土器群

柱穴の明瞭な竪穴住居跡

B区下面の竪穴住居群

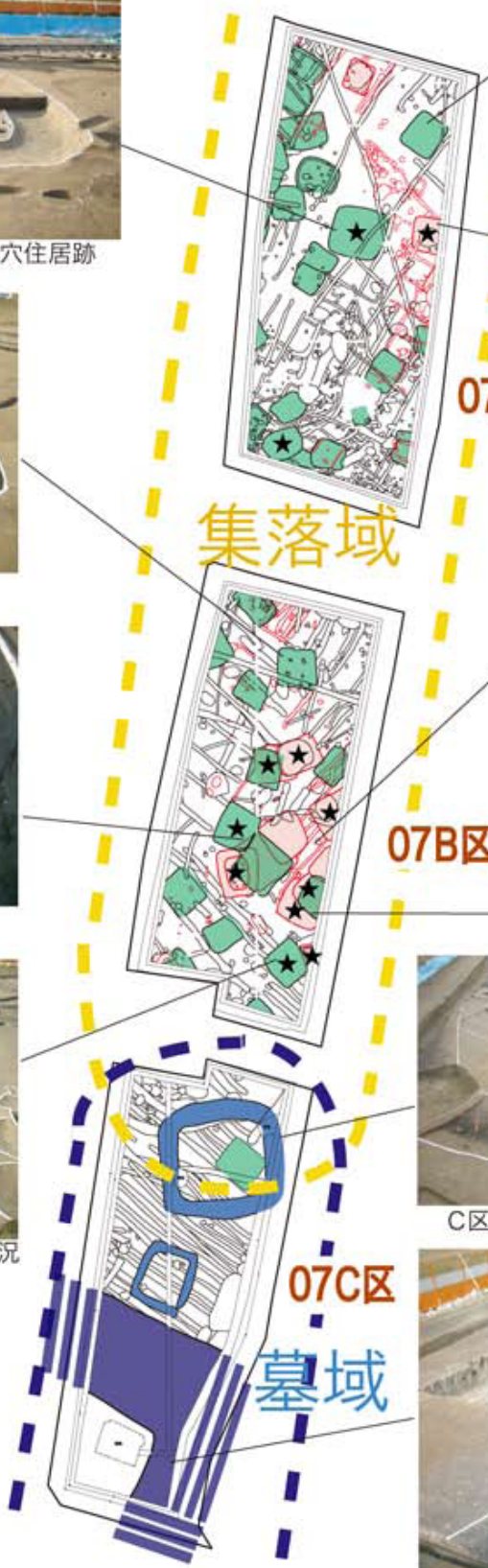
竪穴住居内から出土した土器

竪穴住居跡より出土した管玉

竪穴住居の生活面での遺物出土状況

C区北部で確認された方形周溝墓

C区南部の屈曲する大溝




— 上面遺構
— 下面遺構
■ 上面竪穴住居跡
■ 下面竪穴住居跡
★ 幅の広い周溝を持つと考えられる竪穴住居跡
□ 方形周溝墓(周溝部)

☆この遺跡の時期は古墳時代初期から前期(2世紀～4世紀前半)頃と考えられます。